

## 第5学年3組 図画工作科学習指導案

千葉市立瑞穂小学校

指導者 平田 希衣

展開場所 平成27年10月20日(火) 工作室

### 1 題材名 「 『そのば』くん登場 」

#### 2 題材について

小さいころ空を見上げて「ワニの形をしている」「アイスクリームの雲だ」と雲を何かの形に見立てて遊んだ経験は誰しもあるだろう。本題材では普段見慣れている学校の中の風景や身近なものの一部を「顔」に見立て、その場所の特徴や雰囲気想起しながら「そのば」くんを描いていく。

本題材は、小学校学習指導要領図画工作科 第5学年及び第6学年の目標(2)「材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。」に基づき、内容「A表現」(2)「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。」及び[共通事項](1)を受けて設定している。

「そのば」くんを描くために、まず学校の中にある「顔」探しを行う。「顔」を見つけるのは、その視点を借りて多様な場所の特徴に気付くことがねらいである。逆に言えば「顔」に見えるという側面は、様々な特徴の中のひとつに過ぎない。「顔」を見出す積極的な視線から、その他の特徴を拾い上げ、照らし出していききっかけにしていく。「顔」を見つけた場所の役割や身のまわりのものが本来持っている機能、体で感じる雰囲気など「その場の気付き」をその後の「表現の起点にする」という道筋を活動のはじめに十分に知らせておくことでその後の活動につながるようにしたい。しかし「顔」に見えたというだけで、ものや場所への深いまなざしが発揮されず、絵に表したい場面が何も思いつかないという場合も考えられる。その場合、友達の感じ方や見方、考え方が支援になるのではないかと思う。自他の体験が響きあいながら、着想の起点に立つ話し合いを有効に活用することで、ものや場所の特徴から「そのば」くんを着想することができるだろうと考える。ここでは「顔」に見えたものや場所の役割に立ち戻ってテーマを連想したり、その場で感じた雰囲気からイメージを広げたりする道筋を子どもたちが自由に発想できるよう支援していきたい。そのためには、まずイメージマップを活用し、その「顔」のあった場所、色、形、役割などから想像を広げていく。次に作ったイメージマップをもとに「そのば」くんの物語を考えさせる。物語を考えることによって、自分が見つけた「顔」が「そのば」くんというキャラクターとして命が吹き込まれ、豊かに表現できるだろう。

本題材を通して、子どもたちの自由な発想を支援することによって、表現することの楽しさを味わわせたい。そして楽しみながら発想や構想の力をつけることがねらいである。

「顔」の印刷には、学校のプリンターを利用する。学校のプリンターにはジェルジェットプリンターが採用されている。ジェルジェットプリンターは、一般的に家庭に普及しているインクジェットプリンターに比べ、インクの質の違いにより素早く印刷できるという特徴がある反面、写真印刷の鮮明さはインクジェットには劣るという特徴がある。しかし写真印刷の鮮明さはプリンターの他に写真印刷用紙にも大きく左右される。適した印刷用紙を選択することで撮影した「顔」を鮮明に印刷できるよう工夫したい。また、写真印刷に適している印刷用紙には、大きく分けて光沢紙とフォトマット紙の2つがあるが、今回はフォトマット紙を利用し、光沢紙と違い表面に加工がないため書き込みや、厚みがあり加工ができるものと考えた。

### 3 題材の目標

- 様々な場所の特徴に興味をもち、目線や向きを変えて「顔」を探して楽しむ。  
(関心・意欲・態度)
- 見つけた場所のおもしろさや特徴を味わい、表したいことを見つける。  
(発想や構想の能力)
- 「顔」の形や色、「場所」の様子から、思いついた場面の表し方や動きを工夫する。  
(創造的な技能)
- 感じたことや思いついたことの違いやよさを味わい、伝え合う。  
(鑑賞の能力)

### 4 評価基準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
様々な場所の特徴に興味をもち、目線や向きを変えて「顔」を探す活動を楽しむ。	見つけた場所の形や色などのおもしろさや特徴などから描きたいものを考えることができる。	「顔」の形や色、「場所」の様子から、思いついた場面や動きが伝わるよう、表し方を工夫している。	感じたことや思いついたことの違いやよさを味わい、伝え合うことができる。

### 5 指導計画 (5 時間)

時	子どもの活動	支援と評価 (支援○ 評価●)
1	○いくつかの写真を見ながら、学校の中にもたくさんの「顔」があることを知る。 ○身近にあるものや場所の中にある「顔」を探し、写真を撮る。	○逆さまにしたり横から見たり、視点を変えるとよいことを伝える。 ●様々な場所の特徴に興味を持ち、目線や向きを変えて「顔」を探して楽しむ。 (興味・関心・態度)

2	<p>○見つけた場所の特徴などを基に、どのような「そのぼ」くんにするかを考える。</p> <p>○イメージマップを作り、その「顔」の特徴をとらえ、「その場」くんのキャラクターを作っていく。</p>	<p>○「顔」に見えたものの役割や見つけた場所の特徴からイメージするよう声をかける。</p> <p>●見つけた場所のおもしろさや特徴を味わい、表したいことを見つける。 (発想や構想の能力)</p>
3 ・ 4 (本時)	<p>○「顔」の写真をもとに表したい場面の様子を考え、画用紙に描く。</p> <p>○表したい感じが出るよう、表現方法を工夫する。</p>	<p>○ポーズや背景を決める際、「そのぼ」くんの特徴を思い出したり、いろいろ「顔」を動かしてみるよう声をかける。</p> <p>●「顔」の形や色、「場所」の様子から、思いついた場面や動きが伝わるよう、表し方を工夫している。 (創造的な技能)</p>
5	<p>○「顔」や場所から想像した場面から友達の見え方や工夫を知る。</p>	<p>○互いの作品の良いところを見つけ、感じた理由を明確にして伝えるよう声をかける。</p> <p>●感じたことや思いついたことの違いやよさを味わい、伝え合うことができる。 (鑑賞の能力)</p>

6 本時の学習

(1) 目標

- 「顔」の形や色、「場所」の様子から、思いついた場面や動きが伝わるよう、表し方を工夫することができる。  
(創造的な技能)

(2) 展開 (4/5)

学習活動	教師の指導・支援 (○) 評価の観点 (●)	資料
<p>1 前時までの活動を振り返る。</p> <p>2、本時のめあてをもつ。</p>	<p>○前時までの活動から自分の考えた「そのぼ」くんがどのようなキャラクターであったのかをそれぞれ確認する。</p> <p>○本時の一人一人の目当てを確かめる。</p> <p>○この時間で作品を完成させることを確認する。</p>	<p>ワークシート</p> <p>前回までの作品</p> <p>貼ってはがせるのり</p> <p>イメージマップ</p>
<p>見つけた「顔」に体や背景を描いて「そのぼ」くんを完成させよう</p>		

<p>3、作品を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色鉛筆やクレヨンなど自分の表したい感じに合わせて材料を選び「そのば」くんを描く。</li> <li>・「草むらで遊んでいるからクレヨンで草を描いてみよう。」</li> <li>・「鉄の顔をしているから体も金属のようにしたい。この紙を使おう。」</li> </ul> <p>4 お互いの作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「顔と動きがあって面白いな。」</li> </ul> <p>5 振り返りを書き、次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「そのば」くんのキャラクターや場面に合わせて、描画材料を選び表せるよう準備しておく。</li> <li>○「そのば」くんが何をしているのか、見る人にも伝わるようにするにはどのような表し方がよいか考えるよう伝える。</li> <li>○児童の様子を見ながら新しい発想や工夫している活動を全体にも紹介する。</li> <li>○作業が進まない児童にはイメージマップやワークシートを振り返り、自分が何を表したかったのかを確認する。</li> <li>●「顔」の形や色、「場所」の様子から、思いついた場面や動きが伝わるよう、表し方を工夫している。 (創造的な技能)</li> <li>○「顔」や場所の特徴を考えて「そのば」くんを工夫して表している児童を称賛する。</li> <li>○自分の気に入った表現や工夫、友達の良かったところを発表させる。</li> <li>○次時は作品を掲示し、鑑賞し合うことを伝え、意欲をもたせる。</li> </ul>	<p>色鉛筆 クレヨン 絵の具 プロッキー (水性マジック) マッキー (油性マジック) 自分色紙</p>
--	--	---